

さわやかに たからかに とこしえに

秋田県立横手清陵学院中学校・高等学校 校長室だより第2号
2020年5月15日(金)発行 文責 信田 正之

「正解のない課題」にどう立ち向かうか

全世界で猛威をふるう新型コロナウイルスは、学校はもとより、社会そのものの価値観を一変させました。昨年までは当たり前のこととして考えていたものが、当たり前でなくなる。我々の生活にこれほど影響を与えた出来事は、日本に限って見れば、明治維新や第二次世界大戦以来だとも言われています。

さて今、日本では新型コロナウイルスにまつわる多くの議論が巻き起こっています。そしてその中には、「是か非か判断が難しい」と思われるものが少なくありません。一例を挙げれば、「PCR検査を増やすべきか否か」「9月入学制を導入すべきか否か」「日本は諸外国と比べて優れたウイルス対策をしているか否か」などです。これらに共通するのは、「どのような答えにも善し悪しがあり、人それぞれの価値観や見方によって結論も変わる」ということです。そして、「誰もが認める正解は存在せず、それをやった（やらなかった）ことの善し悪しは、時間を逆行させない限り評価が難しい」とも言えます。

このような議論は日本に限った話ではありません。世界中で多くの議論が巻き起こり、あらゆる立場の人々が賛否両論を戦わせています。なぜ、今の社会がこのような状況に陥っているのか。それは言うまでもなく、「人類がこれまで経験したことのない出来事が起こった」からにほかなりません。では、このような「正解のない課題」を目の前にして、我々にはどのような考え方が必要でしょうか。もちろん、その答えにも正解はありません。ただ、少なくとも私は次のような考え方が必要だと思います。

「課題を自分のこととして受け止めること」「多くの知識を備えること」「多様な意見を尊重すること」「自分の意見には責任を持つこと」「協働して問題解決にあたること」「決まったことには冷静に対処すること」「人の命を最優先すること」

そして実は、これらの考え方が本校で皆さんに身に付けてほしい「主体性」「探究力」「人間力」に合致していることに気づいてほしいと思います。

巷にあふれる多くの議論の中には、知識が不十分で根拠に欠ける意見や、自分にとって都合がいい独りよがりな意見、他者の揚げ足を取るような意見が散見されます。しかしそれでは社会を正しい方向に導きません。また、正解はないのですから、決まったことに対して結果の不手際を非難するだけの議論は、人々を混乱させるだけです。ウイルスの脅威よりも人間の脅威が勝るような世の中にはなってほしくない。皆さんがやがて社会人になったとき、本校で身に付けた力を発揮して、よりよい社会を築く一員になってくれればと願うばかりです。